

2021年 第4回不登校セミナー「子どもを“見守る”とは ～子どもとの信頼関係を考える～」活動レポート

2021年11月20日 10:00～12:00 早良市民センター

11月20日、今年度第4回不登校セミナーが早良市民センターにて開催され「子どもを“見守る”とは ～子どもとの信頼関係を考える～」というテーマで不登校よりそいネット実行委員長 長阿彌 幹生さんより基調講演がおこなわれました。その内容をお伝えします。



文部科学省より発表された不登校に関する実態調査によれば不登校の児童生徒数が増えているとの結果がでています。さらに不登校の児童生徒数の3倍の子どもたちが行き渋りの状態と推定されています。またコロナ禍で子どもの3割に何らかの鬱的な症状がでていることからコロナ禍による生活スタイルの変化が子どもたちに影響を与えていると考えられています。進路に関する悩み、親子関係の不和等により、自殺児童生徒数は過去最多となり、子どもたちの置かれている現状の厳しさがわかります。

激しい競争にさらされ続けられたことや、大人の論理の押し付け、失敗を許さない風潮などから子どもたちが自信を失い、自己肯定感も低くなっています。子どもたちが自信を取り戻すにも、「私たち大人が自信をもって生きていくこと」が大切です。子どもたちは大人の助け合い、支えあい、分かち合う姿、希望や小さくてもいいから夢を語り、子どもたちに見せ伝えていくことで子どもたちが安心していき、安心から自信につながりこどもの自立する力を育んでいきます。

そのために子どもたちに対して「親・大人の意見を押し付けない」ようにしていかなくてはなりません。そんなことをしたら子どもがわがままになるのでは？と思われるかもしれませんが、子どもの気持ちや意見を尊重するという事は子どもの言う通りにすることでなく、親の考えを子どもに提案して一つの参考意見として子どもに伝え、共に考えていく姿勢で向き合うことで信頼関係が築けるようになります。そして「先回りしない」ことも重要です。子どもには失敗する権利があります。失敗することから多くのものを学びます。

さらには、大人が「あせらない」ことです。親が心底変わると子どもがかけがえのない存在であること気づいていきます。しかし親が子どもからの信頼をとりもどすまでには時間が必要です。子どもが変わってきたように思っても「あせらず“見守る”」ことが必要です。見守るということは黙っていることでなく、普通に接することです。子どもを丸ごと受け入れ、とことん付き合う覚悟をもち、子どもを信頼し対応できない時は自分一人で抱え込まないで信頼できる他者と共に考えることも必要です。大人と子どもが信頼関係で結ばれた社会は幸福度の高い暮らしやすい社会になり子どもたちが未来への夢や希望をもって育つことができます。

最後に不登校よりそいネットのスタッフ2名が不登校だったお子さんを見守ってこられた話をしてくださいました。“見守る”ことは永遠の課題で頭の中ではわかっているつもりでしたが、わかっていることに気づくのに時間がかかったこと、「不登校の悩み語り合いませんか」に参加して元気をもらい、自分に足りなかったのは信頼だったと気づいたこと、学校に行けなくなった子どもさんがこれから先どうなるのか心配しているなか祖父母、親戚の方が温かく見守って支えてくれたことで自分が幸せということがわかり、年配の方に見守り方を教わる事が出来たこと。などお二人がお子さんを信頼して温かく見守られてこられたことがとても伝わり共感しました。

レポート作成：禅院千恵（不登校サポートネット事務局）